

設計変更して建て替えに着工

南方院長ら参列して起工式

和歌山病院

美浜町和田、国立病院機構「和歌山病院」(南方良章院長)で28日、新病棟の起工式が行われた。当初計画では昨年7月に完成予定だったが、津波浸水予測が

変更するなど着工が遅れた。総事業費37億6000万円をかけ、完成は平成28年2月の予定。起工式は、現在ある外来診療棟南側の建設地で行われ、南方院長ら関係者計約40人が参列した。

新しく建設するのは、RC造り5階建て1棟延べ床面積約1万4000平方メートル。南海トラフ巨大地震を想定しての耐震設計となっている。

計310床となる。1階部分は、津波が押し寄せても入院患者が被害を受けにくいように病室は置かず、主に機器類が設置され、太い柱で2階以上を支えるピロティ構造にして、津波の抵抗を最低限に抑制する設計となっている。

2〜4階が病室で、5階は訓練や療育用の部屋を計画している。当初の設計段階では、内

閣府の津波浸水予測は、最大で2階の想定だった。このため、一般病棟3階建て1棟と重心病棟平屋建て1棟の計2棟を建設する予定だった。

だがその後、県の想定では最大浸水深が5メートルと発表されたため、根本的な設計変更を余儀なくされた。見直しに当たり、当初は建て替え対象外だった平屋建ての重心病棟40床も新たな病棟に加えることにし、入院患者全体の安全確保に留意した設計となった。大幅に設計変更された新病棟は、5メートル以上の浸水深に対応出来る高さが保たれることになった。

新病棟には、津波が来ても水が入り込まない非常用電源や災害対応用高架水槽を設置。新たにヘリポートも作る事になっている。

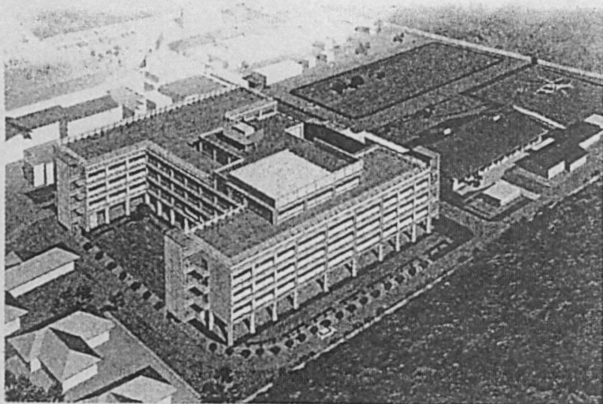
新病棟建設に当たり、和歌山病院側は「地域の安心を担う和歌山病院として、万一の災害時でも診療を継続出来る機能を維持していきたい」と話している。

新病棟建設の主な請負業者は次の通り。

- ▽建設工事 ㈱イチケン (本社・東京) ▽設計監理 ㈱梓設計 (本社・東京)
- ▽電気工事 九電工 (本社・福岡市) ▽機械設備 東洋熱工業 (本社・東京)



関係者が出席して行われた起工式



新病棟の完成予想図